

北総版 授業力向上のポイント

必見

～授業の前に確認するはじめての一步～



授業力向上のために、ぜひ確認してほしいポイントです。

日々の授業で活用してみましょう。

生活科

チェックを
入れてみよう。

1 生活科の学習過程を生かした準備と場の設定を考える。

○生活科の学習過程

具体的な活動や体験を通して、**試行錯誤や繰り返す活動を設定する**ことで気付きの質が高まる学習となるように進めましょう。そのためにも、学習のゴールを示すことはとても重要です。

①思いや願いをもつ ②活動や体験をする ③感じる・考える ④表現する・行為する

※①～④は、学習によって順序が入れ替わることもあります。

○生活科の特性

生活科は、児童（学校）と地域を結びつなげる大切な教科です。「体験活動」や「表現活動」が児童のよりよい学びにつながるように学びの目的に合わせた事前準備をしましょう。

・授業の準備

- ①児童の思考表現を広げるような材料の準備と用具の安全な使い方の確認
- ②人材の活用（地域の方、保護者、ボランティア、学校運営協議会など）
- ③学校や地域の環境を教材化して最大限に生かす工夫（公共のものや施設、地域行事など）

・「場」の設定の工夫

- ①十分に活動できる場所の確保 ②活動時や活動場所の安全確認

2 体験や活動を通して学んだことを伝え合い、交流する場を工夫する。

○伝え合い、交流する場の工夫

・「体験」や「活動」のみで終わることなく、**学んだことについて言語表現を通して友達に伝えられる**ようにしましょう。伝え方の「手本」「見本」があると活動しやすくなります。

・「表現する・行為する（伝え合う・振り返る）」➡ 「広げ深める」場面の工夫

【導入・振り返り】一人一人の気付きを全員で共有

【活動中】新しく知ったことや疑問に思ったことの伝え合い

3 気付きの質を高めるために学習活動を工夫する。

（活動例）見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫する等

・言葉などによる表現と関連付けて、たとえる学習活動を大切にしましょう。（五感を生かして）

ぶどうみたいな実をつけたよ



みかんのようなおいがしたよ

※児童の気付きを認め、児童の学びに合わせた共感的な働きかけや言葉かけをすることにより、考えの深まりや気付きの質が高まるように進めてみましょう。